

平成 29 年度第 2 回 計画検討部会 議事概要

平成 29 年 7 月 19 日（月曜日）18 時 30 分～20 時 30 分まで
札幌市役所本庁舎地下 1 階 1 号会議室

【出席者（50 音順）】

計画検討部会委員：浅香委員、伊藤委員、石橋委員、上田委員、北川委員、重泉委員、
杉田委員、原田委員、渋谷支援員、牧野委員、増田委員

事務局：松原障がい福祉課長、中田企画調整担当課長、安田自立支援担当課長、
加藤精神保健・医療福祉係長、福井発達障がい担当係長、
樋口事業計画担当係長、鈴木個別支援主査
堀井給付管理係長、宮野運営指導係長、竹本職員、高木

【議題 1 さっぽろ障がい者プランの進捗状況について（報告）】

上田委員）乳幼児健康診査について、5 歳児健診があまり知られていない。札幌市は 10 区あるので、各区の 5 歳児健診の受診数の内訳を知りたい。
札幌市）保健所に確認させていただく。

北川委員）障がい福祉の部分における子どものことについて知りたかった。児童発達支援センターが中核施設として研修等も行っているので、研修実績等も知りたい。
札幌市）近日中に全体版を送付するため、他の項目についてはそちらで確認していただきたい。

牧野委員）障がい当事者の講師派遣について、今のプランの基本施策 2 つ目に公共サービス従事者などに対する理解促進の中に入っているが、学校への派遣が多くなっているため、公共サービス従事者と学校とで派遣実績の内訳を示してほしい。
札幌市）近日中に全体版を送付するため、御意見を踏まえて項目を追加する。

【議題 2 札幌市の障がい者を取り巻く環境について（報告）】

原田委員）扶助費の意味がわからないので説明してほしい。
札幌市）法定サービスを提供するにあたり、かかる費用のこと。

石橋委員）平成 30 年度以降の予算の伸びについては、どのように見込んでいるのか。
札幌市）過去の伸びを勘案すると、断言はできないが、同程度の伸びが見込まれる。

石橋委員）「確定はできないけれども、伸びていく見込み」という文言は入れた方が良いのではないか。

重泉委員）資料では予算・決算の状況が介護給付費・訓練等給付費等の大きな区分で示されているが、それぞれの事業ごとの内訳も示してほしい。

【議題3 次期さっぽろ障がい者プラン骨格案について】

杉田委員) 相談支援部会からの意見を伝えさせていただきたい。

介護保険制度における事業所との比較すると、特に相談系の事業所数が足りないと思われる。札幌市ではセルフプランが70%を超える状況にあり、これを解消するに当たって現状の事業所数では非常に難しい。

また、ヘルパーの手配がかなり厳しい現状であるため、ヘルパーサービスの整備も課題であると考えます。

伊藤委員) 札幌市の障がい者プランでは、障がい当事者への支援が中心となっており、もちろんそれは大切なことではあるのだが、家族の不安や負担を減らす取組(家族支援)についてもプランに加えてほしい。

北川委員) 骨格案の施策分野構成において、「教育・育成の推進」という文言があるが、あくまで福祉のプランなので、教育が先にあるのは違うかと思う。また、福祉のプランとして「育成」という文言が適切なのか疑問がある。

牧野委員) 相談員の業務のなかで、発達障がいのある子どもの進路についての相談をよく受けていた。教育は非常に重要なことだと思う。

北川委員) 教育の重要性について否定するものではなく、あくまで文言の話である。札幌市は教育との連携が薄いと感じているので、そこは取り組んでほしいが、福祉のプランとしての文言を考えたい。

【議題4 第5期障がい福祉計画の成果目標について】

杉田委員) 地域移行が進まない理由について、札幌市としてはどのように考えているか。

札幌市) 過去の取組から、地域移行できる方については移行が進み、現在は、より丁寧な支援を必要とする方が施設入所している現状であると捉えている。

増田委員) 就労に関する成果目標については、難病患者の実態を踏まえた上で設定をしてほしい。

増田委員) 医療的ケア児の協議の場について、どのような動きがあるのか。

札幌市) 自立支援協議会の子ども部会にその機能を持たせる方向で検討している。

【議題5 障がい者団体及び市民との意見交換会について】

質疑なし。

【議題6 プラン検討スケジュール(案)について】

質疑なし。

以上